



# 研究の概要

## 1 研究主題

主体的・協働的に学ぶ子どもの育成

－ ICT の効果的な活用を通して－(3年次)

## 2 研究主題について

### ■社会情勢と今日的教育課題から

近年、知識・情報・技術をめぐる変化の速さが加速的となり、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて進展するようになってきている。とりわけ、第4次産業革命ともいわれる、人工知能(AI: Artificial Intelligence)、ビッグデータ、IoT(Internet of Things)、ロボティクス等の技術の急速な進展に伴い、これらの先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられ、社会の在り方そのものが現在とは「非連続的」と言えるほど劇的に変わる「Society5.0」時代の到来が予測されている。

さらに新型コロナウイルス感染症により一層先行き不透明となる中、私たち一人一人、そして社会全体が、答えのない問いにどう立ち向かうのかが問われている。目の前の事象から解決すべき課題を見だし、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、納得解を生み出すことなど、正に新学習指導要領で育成を目指す資質・能力が一層強く求められているといえる。また、情報や情報技術を受け身で捉えるのではなく、主体的に選択し活用していく力も求められる。

このような状況をふまえ、一昨年度より「GIGA スクール構想」の実現に向け、一人一台端末及び高速大容量の通信ネットワークが本校でも整備された。

昨年度の校内研究は、上記の社会的情勢や教育課題をふまえ、一人一台端末を中心とした ICT の活用を通して児童が主体的、協働的に学ぶ手立てをさらに追究した。年度末の研究総括では、研究の継続の必要性と有効性が確認された。

そこで、本年度の校内研究では、昨年度の研究成果を生かし、後述する課題を改善することを通して、研究主題・副題をさらに深く、多面的に追究していきたい。また、一人一台端末を効果的に使用することで、「令和の日本型学校教育」の姿で求められている、教職員の働き方改革にも取り組んでいきたい。

### ■児童の実態から

本校では、「甲斐っ子の宝(小中一貫した生活指導のめあて)」を日々意識して生活をしている。素

直で規範意識が高く、命を大切に、他者を思いやる児童の姿がみられている。心の教育に重点をおいた実践として築き上げてきた足跡であると感じる。この児童のよさをさらに伸ばすため、学びに向かう力を高めたい。児童のもつ意欲を土台とし、自分が置かれた状況を把握し、自分で考えて臨機応変に行動する姿やこれまでの経験をもとに新たな課題に挑戦する姿を期待したい。

学習においては、各種調査及び日々の授業実践から、基礎的・基本的な学習内容はおおむね定着しているといえる。また、指示されたことに対しては熱心に取り組む児童が多い。しかし、過去2年度の研究成果によって、改善はみられているものの、依然として次のような課題がみられる。既習事項を活用して課題を追究すること、筋道立てて考え、適切な方法を選んで説明したり話し合ったりすること。また、令和4年度の学校評価の総括では、「授業(勉強)で分からないことがあったら、先生に聞いていますか。」の設問の評価が低い傾向が見られている。

以上の実態をふまえ、本年度の研究では、昨年度の継続的な研究として、主体的に学ぶ姿・協働的に学ぶ姿とともに、昨年度は主たる研究対象としなかったICTを活用した家庭学習の研究も推進していきたい。

## ■昨年度の研究

昨年度は、主題を「主体的・協働的に学ぶ子どもの育成」、副主題を「ICTの効果的な活用を通して(2年次)」に設定して研究を深めた。研究仮説は「教科等の学習において、ICTを効果的に活用することにより、主体的な学び、協働的な学び、深い学びの実現が促進されるであろう。」とした。

○主題や研究仮説に用いた文言について、本校では以下のように規定した。

- ※「ICTの効果的な活用」とは、「主体的な学び、協働的な学び、深い学びを促進し、教科等の知識・技能の定着及び思考力・判断力・表現力の向上を意図した活用」。
- ※「主体的な学び」とは、「学ぶことに興味や関心をもち、見通しをもって、自分と結び付けながら粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学び」。
- ※「協働的な学び」とは、「子どもどうしの協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、新たな考えや作品等を創出したり、自己の考えを広げ深めたりする学び」。
- ※「深い学び」とは、「習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた『見方・考え方』を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりする学び」。
- ※「促進」とは、ICTを活用しない場合でも、三つの学びの実現は可能であるが、ICTを活用することにより実現の可能性がより高まる学習場面が多様にあることを示唆している。

主な研究内容は、一人一台端末であるクロームブックを中心としたICT機器の授業における活用の模索・検討である。具体的には、低、中、高学年によるブロックや全教職員参加による学び合いを中心とした。また、令和4年度 創甲斐教育推進事業 ICT教育推進事業の指定校として、拡大校内研として公開授業を各ブロックで行い、甲斐市内の先生方と授業研究会を行った。

主な成果と課題は以下の通りである。

**総括** (○成果 ▲課題)

○仮説は妥当であった。

○三つの学びの実現した具体的な姿について、教科等の学びを通して共有できた。

○三つの学びと「情報活用能力」(「情報モラル・セキュリティ」を含む)を関連づけた実践が昨年度より多く見られた。

○研究の計画、内容、方法、組織は、研究の推進に効果的だった。

▲三つの学びと「情報活用能力」を密接に関連させた授業の構築(「深い学び」を中心に)。

▲「令和の日本型教員」を視野に入れる。

▲三つの学び、「情報活用能力」の指標の更新。

▲「情報モラル・セキュリティ」、「ICT活用に関するトラブル」について、内容項目や指導法等の具体化。

▲各ブロックの関連や特別支援ブロックの在り方。

## ■本年度の研究

上記をふまえ、本年度は、過去2年の研究を継承、発展させていくこととする。内容については、以下の3点としたい。

- ①昨年度の成果と課題をふまえた授業研究を中心とした実践的な ICT の活用を中心に行っていききたい。
- ②昨年度のような ICT 活用の研修を望む意見も引き続きあることから、教職員の ICT 活用能力の向上をめざした研修も取り入れていきたい。
- ③昨年度は主に授業に関して、一人一台端末を効果的な活用を研究してきた。今年度は加えて、家庭学習における一人一台端末の効果的な活用の研究を行いたい。

なお、クロームブックで活用できる「アプリの学年別系統表」、「ICT 活用指導計画」を昨年度の甲斐市 ICT 推進委員会で作成したので、活用していきたい。

## 3 研究仮説

教科等の学習や家庭学習において、ICT を効果的に活用することにより、主体的な学び、協働的な学び、深い学びの実現が促進されるであろう。

※「ICT の効果的な活用」とは、「主体的な学び、協働的な学び、深い学びを促進し、教科等の知識・技能の定着及び思考力・判断力・表現力の向上を意図した活用」。

※「主体的な学び」とは、「学ぶことに興味や関心をもち、見通しをもって、自分と結び付けながら粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学び」。

※「協働的な学び」とは、「子どもどうしの協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、新たな考えや作品等を創出したり、自己の考えを広げ深めたりする学び」。

- ※「深い学び」とは、「習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた『見方・考え方』を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりする学び」。
- ※「促進」とは、ICT を活用しない場合でも、三つの学びの実現は可能であるが、ICT を活用することにより実現の可能性がより高まる学習場面が多様にあることを示唆している。

## 4 研究内容

### ○「主体的な学び」、「協働的な学び」について

- ・具体的な姿の想定（昨年度までの研究や文科省等の資料より抽出）  
「主体的な学び、協働的な学び、深い学びの具体的な姿」※別紙
- ・授業研究を通じた検証（各教科等、単元での具体化と検証・修正）

### ○ICT の効果的な活用について

- ・能力系統表の活用（昨年度までの研究や文科省等の資料より作成した系統表を活用、修正）  
「情報活用能力の段階表」※別紙
- ・授業研究を通じた検証（各教科等、単元での具体化と検証・修正）
- ・家庭学習における一人一台端末の利活用法の検証。
- ・ICT の効果的な活用に関する研修
- ・実践記録の作成

### ○ブロック研究について

- ・ICT 機器（主にクロームブック）の活用法についての学び合い（どんな単元でどんな活用をしたかを報告し合ったり、教え合ったり、疑問を出し合ったり等）。
- ・ICT 機器を活用した教科等の実践を報告し合い、実践記録として簡単にまとめていく。多い場合は有効だったものに絞る。
- ・実践記録では、「情報活用能力の段階表」から育成したい能力を選択し、「主体的な学び、協働的な学び、深い学びの具体的な姿」からめざす児童の姿を選択できるとよい（該当する場合）。授業前に暫定的に決めておいたり、授業後に確認したりといった活用が考えられる。
- ・研究授業を各ブロック1回行う。

※ここには詳しく記述しないが、各ブロックの交流による実践発表も視野に入れたい。

### 実践記録の例

学年	月	教科等	単元	使用機器・アプリ	情活能力	学び要素	活用場面	成果・課題等
4	5	社会	ごみのゆくえ	クロームブック クラスルーム ジャムボード	I-4	B-1	校外学習で撮影した画像を見て、わかったことや疑問を付箋機能でコメントして提出し、これから追究していくことを決める。	多くの情報を比較・検討することで、個に応じた多様な学習課題が設定できた。

※主なものを記録。はじめは、どんなことでも可。研究会場で記録係を設け、その場で入力すると効率的。エクセルで作成することにより項目に応じた並べ換えが簡単。学校共有に保存することにより他ブロックも閲覧可能。

## 5 研究組織

